

ミャンマーからの最新情報 No, 4 をお知らせ致します。

平成17年10月14日 ヤンゴンより

トンテの学校の写真、昨日(13日)撮影してきました。殆ど出来上がってるように見えました。後は壁を張ったりするだけのようで2週間以内に終わるものと思います。



↑ 8月12日時点 (組んである竹は足場)



↑ 10月14日現在



校舎裏側よりの全景

↓ 通風孔



学校正面



旧トンテ小学校は屋根のトタンがむき出しでしたが、新築贈呈小学校には天井板が施され、蒸し暑さも緩和されるものと思います。



8月12日時点のテラス



10月14日現在



↑校庭の境（フェンス用柱）
奥の高台はフヤソゴエト通り



写真手前フェンス用金網



ミャンマー式水洗便所全景：汚水槽（左）と便所棟（右）
水道設備は無いので用をたしたあと自分でバケツの水を流す
とすると、バケツ持参？

ミャンマー（ビルマ）国概要

- 面積：67.7万平方キロメートル（日本の約1.8倍）
- 地理：インドシナ半島の西端、東はタイ、ラオス、西はインド、バングラデシュ、北は中国と国境を接し、南はインド洋に面している。
- 気候：北部の山岳地帯等を除き熱帯モンスーン気候。季節は暑季（3月～5月中旬）、雨季（5月下旬～10月下旬）、乾季（10月下旬～2月）の3季に分けられる。
- 首都：ヤンゴン（旧称ラングーン）、人口420万人（00年推定）
- 人口：5,117万人（2002年推計）、増加率1.6%（90-2001年平均）
- 民族：ビルマ族69%、シャン族9%、カレン族6%、その他16%
- 宗教：仏教（上座部仏教）89%、キリスト教5%、イスラム教4%ほか
- 言語：公用語はビルマ語。そのほか英語、カレン語、シャン語など。

ミャンマーの教育制度

小学課程は、幼稚園、1年～4年生までの5年制で、就学年齢は6歳から

小学課程は2000年から義務教育化されているようです？

中学課程は4年制で11歳～14歳

高校課程は2年制の計11年間で、16歳卒業です。

従って大学は17歳からで4年制です。

2001年15～24歳の識字率91.4% JCIF (財 国際金融情報センター) の資料参考

平均寿命：男56.2歳、女61.8歳、男女平均58.9歳 WHO 2002年資料参考



平成16年12月2日

ヤンゴンより送付のトンテ小学校全景

トンテ村 戸数80 人口450

学校名: Pay a Nguk To Southem School

学年: 幼稚園から小学校4年生まで

正教師 2名 補助教師 1名

生徒数: 63名 (平成17年10月21日現在)

内訳 幼稚園 23名、1年生 17名

2年生 12名、3年生 6名

4年生 5名

この校舎は新校舎へ移転後、教師の宿舎に使う予定とのこと。

↑国旗掲揚のポールその右は学校名の看板

村長の話：学校建築の場所は前から決まっていたのだが、お金が無く目途がたたなかった。



平成17年5月17日

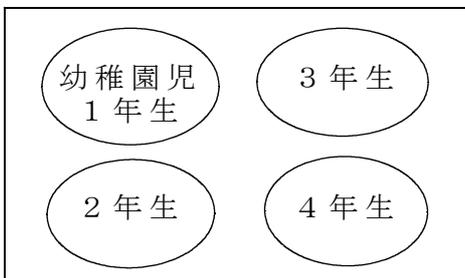
ヤンゴンより送付の写真

←民家

←国旗掲揚台 ポールは丸太

我々慰霊団滞在中、トンテ小学校に贈呈の許可が出なかった、日本より持ち込みの文房具（ノート、鉛筆、鉛筆削り、カッター）とピアノ、縦笛を、後日改めて

現地金澤さんがヤンゴンの教育省に持ち込み、贈呈許可を貰い、その後、教育省担当官立ち会いの下、トンテ小学校への引き渡し式の模様



トンテの小学校内部は教員室も無く建物全体が、一部屋で図のような使い方をしてました。他の小学校でも同様の使い方をしてました。

- 10月19日 ミャンマーの学校を訪れると必ず国旗掲揚の柱が在るのですが、トンテ小学校の国旗掲揚の柱は30リ立派なのに出来ますか？
- 10月19日 予算に入れてませんでしたので別途費用がかかります。費用を確認します。
- 10月21日 今、国旗掲揚の見積もりが来ましたが鉄製のポールで上等なものらしいですが、偉く安いです。約\$30です。安すぎる気もしますが・・・
- 10月23日 了解しました。国旗掲揚の設置場所について教育省の許可を取って下さい。費用は来日の際お支払い致します。お手数掛けますが宜しくお願いします。
- 11月9日 金澤さん来日、国旗掲揚台代金\$30（日本円 約3,612）を支払いました。（交換レート11/9現在 \$1=¥120.41）



平成17年11月13日校舎が完成しました。机、椅子、黒板の搬入と国旗掲揚台の工事を待つのみとなりました。



←校舎とミャンマー式水洗便所

11月18日ヤンゴンより：信じられないことですが首都移転に伴い既に教育省スタッフが移動し始めており寄付者の銘板と国旗掲揚台の許可担当者がピンマナに行ってしまうました。彼はまだヤンゴンとピンマナを行ったり来たりして、いづれ近いうちピンマナに完璧に移動になります。ピンマナはヤンゴンから車で8時間かかり、本当に申し訳ないのですが今、弊社スタッフを行かせる時間的余裕が在りません。12月になったら行かせますので許可の件は少々お持ち下さい。

↓ 関連記事

平成17年(2005年)11月16日 水曜日

【バンコク＝岩田智雄】

ミャンマー政府が首都機能の移転を正式に発表し、実際に引っ越し作業を始めたことにより各国の外交団の間で混乱と困惑が広がっている。大使館との窓口である外務省を含めすべての政府機関が移転してしまえば、政府との連絡がとりにくくなるからだ。

移転先はヤンゴンの北約三百キロにある中部の地方都市ピンマナ。移転のうわさは昨年夏あたりから流れていたが、政府が外交団やメディアに正式に発表したのは移転開始翌日の今月七日のことだ。

記者会見したチョー・サン情報相によると、当面、外務省を含む九省が移転するが、最終的には二十三省庁すべてが移転する。理由

については「ピンマナは国土の中心にあり、国家の発展のために地理的にも戦略的にも適切」と説明した。今後、各国大使館や国際機関などの連絡が難しくなることが心配されるが、ミャンマー政府は「フックスや電話が可能」としており、外交官団をあきれさせている。

また、いまのとおりミャンマー政府は各国に大使館移転を求めているもの、ある当局者は西側外交団に「ピンマナに各国大使館を建設する用地を確保してある」と説明したという。各国は大使館の移転も視野に入れなければならないが、特に隣国にあり経済的

なつながりも深いタイは、新しい大使館を約五十八億円かけてヤンゴンに建設中であり、対応に苦慮している。

政府庁舎の建設が行われているピンマナでは、電話や電気などの社会基盤がほとんど整備されていないといわれており、政府職員は宿泊施設もなく、床に寝ている状態という。ある西側外交官は「本当に移転するのかわかりませんが、様子を見守りたい」と語った。

一方、首都機能移転の理由についての政府の説明を聞き取り受け止める人はおらず、ヤンゴンでは、その「真意」についてさまざまな憶測が流れている。

その一つは、人権問題で厳しい無罪を取り締める米國からの攻撃に備え、新たな首都を建設する上にあるもの。だが、米國が国境のほとんどもとをミャンマーを攻撃することは考えにくく、チョー・サン情報相も記者会見で否定的な見解を示した。

このほかにも、ヤンゴンにあるパゴダ（仏塔）の改修工事で古文書が発見され、「首都を中部に移転すれば国が栄える」と書かれていたといった話もある。パリ発行の国際誌「インターナショナル・ヘリタージュ・レビュー」は、大規模な改修工事を下したためとの説を伝えている。

どうする大使館 各国困惑

本気!? ミャンマー首都機能移転

ミャンマーの突然の首都機能移転で、トラックに荷物を積み込み引越す準備を急ぐ首都ヤンゴンの兵士たち (AP)

と言ったような、首都移転騒ぎで、ご報告が遅くなりましたが、銘板の設置は、校舎正面に取り付けられました。国旗掲揚台と黒板、椅子、机に関しましては、納入が遅れています。



平成18年1月16日
ヤンゴンより送付

学校正面左側に銘板が設置されました（光っているのが銘板です）

窓の横にガラスが配置され採光も旧校舎より大幅に改善されました。

平成18年2月2日ヤンゴンより、以下↓の写真が送付されました。
平成17年10月21日 今、国旗掲揚の見積もりが来ましたが鉄製のポールで上等なものらしいですが、偉く安いです。約\$30（¥3,612）です。安すぎる気もしますが・・・ というような経緯のもと、別立て発注の国旗掲揚台の工事模様



← 日干しレンガを積み上げ、セメントをこねる

着脱式のポール→を固定しセメントを流し込む



↑ 完成した国旗掲揚台
ファヤンゴエト通りを望む



↑ 普通は木の棒なのですが鉄製の立派な国旗掲揚台

↑ 賛助協力者銘板

平成18年1月27日、先生用机椅子が5セット、生徒用椅子机が15セット搬入されました。黒板も取り付けられました。皆様の協力で立派な校舎と机、椅子が搬入され、後は教育省に引き渡すだけとなりました。改めて皆様に厚く感謝申し上げます。



先生の机、椅子



先生の机、椅子と黒板それに生徒達らの机、椅子



椅子、机は各クラスごと配置されてるようです。



FRIENDSHIP OF MYANMAR AND JAPANの文字が各机、椅子に記入されてます。

申請から完成迄の経緯（平成17年～18年）

平成17年	2月23日	ミャンマー教育省へ学校建設に対する申請者の書類提出
	3月18日	教育省より学校建設申請者（団体）に対する許可受託
	4月18日	建設会社より見積書受理
	4月25日	教育省へトンテ村小学校建設許可申請を建設会社よりの見積書を添付して提出
	5月18日	教育省よりトンテ村小学校建設許可受託
	5月19日	建設会社へ建築発注
	7月1日	建設資金拠出（海外送金出来ない為、金澤氏の来日を待ち現金\$11,000を渡す日本円で1,247,620）
	7月14日	建設開始
	11月13日	校舎完成（工事期間4ヶ月）
平成18年	1月16日	校舎正面に銘板設置
	1月27日	先生用机椅子5セット、生徒用机椅子15セット納入
	2月2日	国旗掲揚台完成（\$30=¥3,612）

※教育省からトンテ村への引き渡しは未定でピンマナ（首都？）からの連絡がかなり遅れるのではないかとのことでした。



「日本からの寄進者に感謝を込めて、我々は、ベヤノット村議会と村の全ての組織を代表して村に学校を寄附してくれた日本の人々に心からお礼申し上げます。」

Payar Ngokto (South) 村
村長 U Tin Aung

ヤンゴン金澤 氏よりメール

校長先生からのコメントはプロの翻訳家をお願いしました。格調高い文章で私にはチト荷が重いです。5日間お待ち下さい。



「私は2005年6月、雨期の始めごろ新学期にこの学校へ校長として転勤して来ました。小学校の校長の義務は“人生を始めた、花が咲き始めた”というような子供達の人生を良くなるように育てることなので誇りを持っております。当初よりこの学校の発展を望んでいました。しかし、時間がかかると思いました。当校は校舎がボロボロで机や椅子も足りないことと村の人々は貧乏だからです。

しかし、私や同僚の先生方、学生達、村の人々の恩が良かったです。同じアジアで生まれた日本人の寄附により雨期から乾季へ変わった頃、トンテー郡区バヤーゴッティ（南）村小学校の新しい校舎が出来上がりました。机や椅子も足りるようになりました。ヤンゴン～トンテー通りとヤンゴン～ビャボン通りのコーナーの賑やかなところにあり、遠くから見ても近くから見ても立派な学校になりました。“母校”として誇りにもてる

と思っておりました。この学校を守ることと共に学校の発展のため一生懸命努力して行きたいと思っております。

寄附して下さいの皆様は真心は一生忘れません。国が遠く離れていても心が近いことは間違いなくと思います。機会がありましたら皆様に新しい校舎をご自分の目で見て頂きたいと思っております。」

トンテー郡区バヤーゴッティ（南）村小学校
校長 ドーモートウ

※ 緑のロンジーと白のブラウスで襟なしは学校の先生の正式な服装で、学生は襟付きでも良いそうです。



旧小学校



新設の小学校

学校建設申請から完成まで、首都移転騒ぎも加わり遅れ気味で、約1年掛かりましたが、ヤンゴンとマンダレーは政府の規制が厳しい中で、誠意ある対応でした。また、中国と違いワイロの請求もなく、いやな駆け引きもなく、無事皆様のご協力が実ったと感謝申し上げます。なを、旧小学校は教師の宿舎に使う予定だそうです。

